

知れば知るほど奥が深い

# お米作りのきほんの **き**

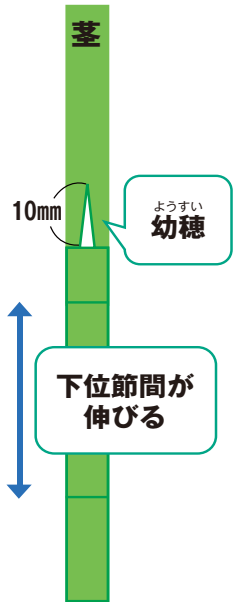


## ～ レベルアップ編 穂肥と水管理について ～



皆さんの圃場では現在、穂肥を行っている方が多いと思います。  
 穂肥の効果としては、穂が茎の中にできる時に葉の色が落ちるので、追加で施肥することで穂が長くなり、粒張りが良く大きなお米になります。また、食味にも影響しやすい時期です。穂肥のやりすぎには注意をしてください!!  
 他には、水管理をすることで高温障害などを軽減することもでき、食味についてもよくすることが出来るので今からの管理がとても大切です!!  
 皆さんもう一度、確認しましょう。

### 穂肥の効果



### 【穂肥診断】

- ① 稲の茎を縦に切って幼穂の確認
- ② 幼穂の長さで穂肥のタイミングを見る (品種によって違うため確認) 【図右】

早すぎる穂肥は下位節間が伸びて倒伏する可能性があるので注意!!  
 一発肥料でも色が極端に悪いところには穂肥を (後効きがあるので少なめ)

品 種	幼穂長	出穂前日数
コシヒカリ	10~30mm	18~15日
あきたこまち	5~10mm	20~18日
キヌヒカリ	5~10mm	20~18日
ヒノヒカリ	8~10mm	18日
にこまる	5~10mm	20~18日
ひめの凜	2mm	20~18日

施肥時期	穂数増加	粒数増加	退化防止	登熟向上	節間伸長
早い	○	○	○	×	×
適期	○	◎	◎	◎	
遅い			○	◎	

◎効果大 ○効果あり ×悪い

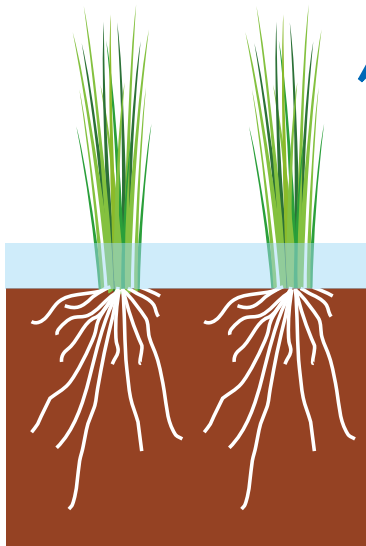
穂肥を多く施肥しすぎると、たんぱくの含有率が上がり、いわゆるパサパサでおいしくないお米になってしまいます。

また、穂肥のタイミングが遅くなると窒素が蓄えられたままとなり、これも食味を落とす原因になります。

一発肥料で施肥している方は、特に注意が必要です。



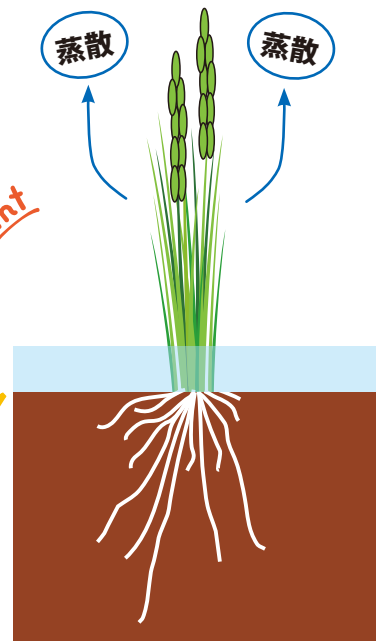
### 水管理



中干し後、入水し (5cmくらい水を溜める)、自然落水。田面が見えだしたらまた入水。この繰り返しを「**間断灌水**」。  
 高温の時は、夕方に入水し冷たい水を入れることで夜温を下げる役割がある。

出穂が始まったら、基本的に湛水管理(水を溜めた状態)。この時期に、圃場内が高温になると生理障害で米粒が白くなるため、水を溜めることで地温を下げる。また、この時期は最も蒸散が多くなるので水を切らさない。

『お米が白い』ということは、きれいにデンプンが蓄積されていません。これは、食味に影響します。こまめに圃場を見回り、水管理を上手に行いましょう!



生 長